

令和7年度指標に対する実績評価

指標の目標年度 令和8年度
評価期間 令和6年度～令和8年度

※1「分室」: 谷田部・筑波・小野川・荻崎交流センター図書室
※2「閲覧所」: 研究学園・みどりの南小学校図書室

1 市民サービスに必要な資料を確保し、提供することに関する指標（9項目）

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
1-1	所蔵資料点数	中央図書館(自動車図書館を含む)、分室(※1)、閲覧所(※2)等で所蔵する資料(視聴覚資料・雑誌を含む)の点数。電子書籍は除く。	所蔵資料の収容スペースが限界に近いため、現状の実績値を維持することを目指す。	486,240点	492,183点	501,905点	506,069点	490,000点	103.3%	閲覧所(※2)の設立が相次ぎ、令和8年10月からさらに新たな閲覧所を設置する予定となっている。閲覧所の配置資料が約4千冊増加した。所蔵スペースは限界に近いので、今後も受入及び除籍により書架の充実を図っていく。
1-2	受入資料点数	中央図書館(自動車図書館を含む)、分室、学校図書室等で受入した資料の点数(視聴覚資料・雑誌を含む)。電子書籍は除く。	蔵書の入替えにより、書架の質を向上させる。	24,020点	26,600点	31,920点	33,071点	28,000点	118.1%	中央図書館、移動図書館で受入点数が増加しており、目標達成に至っている。令和7年度は200万円の寄付があり、児童書の購入に充てることができた。図書館内の所蔵スペースは逼迫しているため、今後も受入と同時に除籍を行っていくことで蔵書の充実を図っていく。
1-3	個人貸出点数	中央図書館(自動車図書館・配本所を含む)、分室、閲覧所等で個人へ貸出した資料の点数(視聴覚資料・雑誌を含む)。電子書籍及び団体貸出は除く。	利用者の多様な要求に応えるよう努め、貸出の増を図り、図書館サービスの充実を目指す。令和元年度から令和4年度の増加点数(約53,000点)を考慮し、令和5年度の実績値から算出した。サービスポイントの新設や人口増から、今後も増加が見込まれる。	1,481,648点	1,498,017点	1,451,468点	1,427,312点	1,550,000点	92.1%	前年度と比較して約2.4万冊、特に中央図書館における減少幅が大きく、昨年度から約4.5万冊減少した。中央図書館においては特に6月の貸出点数が大きく減少しており、例年より気温が高い気候による影響を受けた可能性がある。 一方、谷田部、筑波、小野川交流センター図書室、研究学園小学校図書室では増加した。筑波交流センター図書室では、前年度3か月の休室期間があったため、以前の水準に戻っている。研究学園小学校図書室においては、約8千冊(令和6年度)から約1.3万冊(令和7年度)まで増加しており、閲覧所に対する認知度が上昇していると考えられる。
1-4	視聴覚資料貸出点数	CD・DVD・VHSビデオ等の視聴覚資料の貸出点数	近年動画・音楽配信サービス等の普及が進んだためか、著しく減少している。新型コロナウイルス感染症流行前の水準(約70,000点)に戻すことを目標とする。令和7年1月から貸出期間が1週間から2週間に変更になるため、その影響を注視していく。	52,270点	50,195点	46,651点	40,118点	70,000点	57.3%	令和4年度から続けて減少している。令和7年1月から視聴覚資料の貸出期間が2週間に変更されたが、影響は不明である。減少の要因として、1-3個人貸出点数の減少が影響している可能性がある。また、動画配信サービスが普及したことによるニーズの変化も考えられる。引き続き展示などを通してより多くの利用者に利用してもらえるよう取り組んでいく。
1-5	市民一人当たりの貸出点数	中央図書館(自動車図書館・本庁舎コミュニティ棟・かとりだい交流館を含む)、分室、閲覧所等で個人へ貸出した資料の点数(1-3個人貸出点数)を9月1日現在の常住人口で除して算出した、市民一人当たりの貸出点数	人口20～30万人都市の平均値5.06点(「日本の図書館2022」)を考慮し、現状維持の上、やや増加させるものとして目標値を設定した。	5.9点	5.9点	5.6点	5.4点	6.0点	90.7%	市の常住人口は増加しているが(令和7年9月1日時点:262,363人、令和6年9月1日時点:259,059人)、個人貸出点数は減少している。利用者の新規獲得や、利便性の向上により、市民が図書館サービスを有効に活用できるよう工夫する必要がある。
1-6	電子図書館へのアクセス件数	電子図書館へのアクセス件数(学校利用を含む)	令和6年6月に市内児童生徒約23,000人に対して電子図書館用のIDパスワードを配布したため、著しく増加することが見込まれる。令和6年9月～11月の平均は約17,000件/月。20,000件×12か月を目標とする。	21,296件	31,836件	173,169件	147,642件	240,000件	61.5%	令和4年10月の電子図書館導入以降、増加し続けている。令和6年6月に開始した学校における電子図書館利用促進事業により、アクセス数が飛躍的に増加したが、令和7年度は令和6年度から約3万件減少している。
1-7	電子書籍資料所蔵点数(閲覧可能点数)	電子図書館で閲覧可能な電子書籍の点数(年度末時点での有効点数)	中央図書館における所蔵資料の収容スペースに限界があるため、電子書籍の充実を図ることで図書館サービスの充実を目指す。また、非来館型サービスを提供することにより利用者の利便性の向上を図る。	1,468点	3,553点	4,864点	6,240点	5,000点	124.8%	令和4年10月の電子図書館導入以降、増加し続けている。令和7年度は、例年以上に予算を確保し、コンテンツを増加したためと考えられる。

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
1-8	電子書籍資料 貸出点数	電子書籍の貸出点数(学校利用を含む)	令和6年6月に市内児童生徒約23,000人に対して電子図書館用のIDパスワードを配布したため、著しく増加することが見込まれる。令和6年9月～11月の平均は、約4,500点/月。5,000点×12か月を目標とする。	6,586点	13,164点	46,457点	50,936点	60,000点	84.9%	令和4年10月の電子図書館導入以降、増加し続けている。令和6年6月に開始した学校における電子図書館利用促進事業により、貸出点数が飛躍的に増加した。令和7年度は、電子図書館へのアクセス件数(1-6)は減少したが、貸出点数が増加しており、1人当たりの貸出点数が増加していると言える。
1-9	電子書籍資料 閲覧点数	電子書籍の閲覧点数(学校利用を含む)	令和6年6月に市内児童生徒約23,000人に対して電子図書館用のIDパスワードを配布したため、著しく増加することが見込まれる。令和6年9月～11月の平均は、約29,000点/月。35,000点×12か月を目標とする。	16,600点	32,033点	292,861点	237,969点	420,000点	56.7%	令和6年6月に開始した学校における電子図書館利用促進事業の影響もあり、令和4年10月の電子図書館導入以降、継続して増加している。しかし、令和7年度は令和6年度から約5万点減少している。

2 市全体へのサービスに関する指標（8項目）

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
2-1	来館者数	中央図書館に来館した延人数	新型コロナウイルス感染症流行前の実績(令和元年度: 約560,000人)を考慮し、増加させることを目標とする。一方、サービスポイントが増加したことに伴い、利用が中央図書館以外に分散することが考えられる。	478,875人	455,178人	554,215人	550,168人	500,000人	110.0%	目標を達成しており、新型コロナウイルス感染症流行前(令和元年度: 約56万人)の水準に戻りつつある。 ※令和5年度は、入館者カウンター機器の故障により、46日間計測不可。
2-2	図書館利用カード 実利用者数	1年間に図書館利用カードを利用して資料を借りた人数(1人の人が複数回利用した場合は1人と計算。団体貸出を除く)	平成30年度以降、30,000人前後で推移している。市民の図書館利用促進に努める。	30,326人	31,111人	30,891人	30,770人	35,000人	87.9%	令和6年度、令和7年度と徐々に減少している。
2-3	新規登録者数	新たに図書館利用カードを作成した人数	毎年度6,000人前後で推移している。転入者や図書館未利用者等に対するPRに努め、図書館利用者を増加させていく。	6,820人	6,826人	6,467人	6,105人	7,000人	87.2%	年々減少傾向にある。市の人口は増加しているため、さらなる新規利用者の獲得に努めていく。
2-4	所蔵館以外への 返却冊数	所蔵館(中央図書館、自動車図書館、分室、学校図書室)以外に返却された図書資料の冊数	サービスポイントや自動車図書館ステーションの増設に伴い、増加傾向にある。令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。	159,776冊	167,733冊	162,264冊	175,570冊	185,000冊	94.9%	令和7年度は前年度から約1.3万冊増加した。
2-5	ブックポストへの 返却冊数	各ブックポストに返却された図書資料の冊数	サービスポイントや自動車図書館ステーションの増設に伴い、増加傾向にある。令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。	37,112冊	58,500冊	70,948冊	83,966冊	65,000冊	129.2%	令和6年度と令和7年度を比較すると、すべてのブックポストで利用件数が増加している。特に、かとりだ交流館のブックポストの利用件数が約3,000件増加している。つくばエクスプレス沿線地区に居住する市民の利用が増加していると考えられる。
2-6	予約件数	中央図書館、自動車図書館、分室及びホームページからの予約受付件数	平成30年度から4交流センター図書室の在架資料が予約できるようになり、大きく増加した。近年は図書館ホームページからの予約等、インターネットサービス全般の利用が拡大傾向にある。サービスポイントの増設によりさらに増加することが見込まれる。	180,325件	208,444件	219,813点	213,092点	230,000件	92.6%	予約件数は昨年度よりやや下がった数値となったが、目標値の92%は達成している。今後在架資料の予約等の取扱いについて検討し、さらなる予約件数の増加に努める。
2-7	図書館ホームページ へのアクセス件数	図書館ホームページへのアクセス件数	令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。令和4年度以降、インターネットサービスの利用拡大と電子図書館サービス(令和4年10月開始)の影響を受け、急速に増加している。	580,449件	825,729件	899,478件	954,687件	900,000件	106.1%	令和7年度にホームページを全面リニューアルし、見やすさ、わかりやすさが大幅に向上したことで、アクセス件数が上昇したと考えられる。目標値は達成したが、引き続きアクセス数の増加につながるよう情報発信を行っていく。

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
2-8	図書館情報紙の発行回数	市民向けの図書館情報紙(「ヨモッカ」「こどもヨモッカ」「としよかんの本」「パスファインダー」等)の発行回数	「ヨモッカ」「こどもヨモッカ」(年2回)、「としよかんの本」(年4回)、「パスファインダー」(不定期、年2回程度)を発行・改訂することにより、図書館や資料に対する市民の理解と関心を高める。	7回	18回	10回	9回	10回	90.0%	令和7年度は、図書館情報紙「ヨモッカ」を2回、「こどもヨモッカ」を2回、所蔵資料の紹介紙「としよかんの本」を4回、テーマ別に資料の調べ方や参考資料を紹介する情報紙・パスファインダーを発行した。引き続き、市民に親しまれる情報紙を定期的に発行し、図書館の利用促進を図っていく。

3 高齢者、障害のある方及び外国の方へのサービスに関する指標 (5項目)

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
3-1	大活字本の所蔵冊数	大活字本の所蔵冊数	令和5年度の目標値を継続する。徐々に増加傾向にあるが、資料の収蔵スペースが限界に近い。大活字本の計画的な蔵書管理に努め、高齢の方や利用に障害のある方への図書館サービスの充実を目指す。	2,797冊	2,845冊	2,808冊	2,837冊	3,000冊	94.6%	令和7年度は、令和6年度よりわずかに増加した。資料の所蔵スペースには限界があるため、厳選の上、資料の量と質の確保に努める。
3-2	大活字本の貸出冊数	大活字本の年間貸出冊数	徐々に増加傾向にある。令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。資料の充実とともに、大活字本コーナーの分かりやすい表示やPRに努め、高齢の方や利用に障害のある方への図書館サービスの充実を目指す。	3,028冊	2,917冊	2,587冊	2,468冊	3,300冊	74.8%	3年連続で減少している。電子図書館における電子書籍では、文字のサイズを利用者自身で調整でき、読み上げ機能付きの資料も多数所蔵しているため、貸出冊数が減っていると考えられる。
3-3	外国語資料の所蔵冊数	英語、中国語、韓国語をはじめとする外国語資料(児童書及び一般書)の所蔵冊数	令和5年度の目標値を継続する。徐々に増加してはいるが、資料の収蔵スペースが限界に近い。一定以上の水準を維持し、多言語サービスの充実を図る。	11,208冊	11,662冊	11,503冊	11,184冊	12,000冊	93.2%	令和7年度は令和6年度と比べてやや減少した。所蔵スペースは限界に近い。ため、厳選の上、引き続き資料の量と質の確保に努める。つくば市は、外国人居住者の割合が全国平均よりも高く、今後も外国人居住者数は増加する見込みのため、引き続き外国語資料の充実を図っていく。
3-4	外国語資料の貸出冊数	英語、中国語、韓国語をはじめとする外国語資料(児童書及び一般書)の年間貸出冊数	令和5年度の目標値を継続する。外国語資料コーナーの配架や外国語による掲示等の充実に努め、外国語資料の貸出増を図る。	11,206冊	11,611冊	10,596冊	10,875冊	12,000冊	90.6%	令和7年度は令和6年度と比較してほぼ同じ数値となった。掲示等、外国語の情報発信を強化し、さらなる貸出冊数の増加を図っていく。
3-5	点字資料の所蔵点数	中央図書館のボランティアが作成した点字資料と購入した点字資料の所蔵点数	点訳資料の作成及び収集に努め、所蔵点数増を図り、図書館資料の利用に障害のある方への図書館サービスの充実を目指す。	246点	251点	261点	260点	270点	96.3%	点訳ボランティアによる点字資料の作成を継続的に支援するとともに、計画的に点字資料を購入することでサービスの充実を図っていく。また、点字がはがれて読みにくくなってしまう場合もあるため、点訳ボランティアに資料の修理を依頼することで資料の作成だけでなく、保存も強化していく。

4 地域支援サービスに関する指標 (3項目)

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
4-1	自動車図書館利用人数	自動車図書館(3台)の年間貸出人数	令和5年度の目標値を継続する。自動車図書館ステーションの見直しや蔵書の充実を図り、適切な周期の運行に努め、図書館サービスの充実を目指す。	12,316人	13,841人	11,287人	9,865人	14,000人	70.5%	昨年度から1割程度減少した。令和7年度はステーション(停留場所)の追加はなかった。令和7年度は、一部のステーション施設(学校、保育所、高齢者施設等)から希望があり、合計7か所で「一般利用不可」の運用となった(令和6年度:2か所)。また、雨天による完全運休が11日間(令和6年度:12日間)、熱中症警戒アラート発令による運休が8日間(令和6年度:4日間)あった。
4-2	自動車図書館貸出冊数	自動車図書館(3台)の年間貸出冊数	令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。自動車図書館資料の充実に努め、利用者のニーズに応じた本を積載して各ステーションを巡回することで、貸出冊数の増を図る。	43,337冊	47,583冊	38,457冊	31,985冊	53,000冊	60.3%	昨年度から1〜2割減少している。利用人数(4-1)と同様の理由であると考えられる。

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
4-3	相互貸借貸出冊数	図書館が所蔵していない資料で、利用者の希望を受けて他市等の図書館から借受して貸出を行った資料冊数	近年、1,500冊前後で推移している。令和5年度の目標値を継続する。利用者が求める資料で中央図書館が所蔵していない資料について、他の図書館と連携して利用者に提供する。	1,743冊	1,420冊	1,466冊	1,336冊	1,500冊	89.1%	昨年度微増したものの、減少傾向にある。

5 課題解決支援、ボランティアとの連携、利用者の情報活用能力に関する指標（4項目）

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
5-1	レファレンス受付件数	中央図書館のカウンター、電話、電子メール等で受付をしたレファレンス件数	近年、1,400件前後で推移している。利用者の調査研究や調べ学習を支援し、図書館サービスの充実を目指す。	1,458件	1,446件	1,474件	1,629件	1,500件	108.6%	昨年度から約130件増加し、目標を達成した。
5-2	ボランティア登録者数	中央図書館の各ボランティアに登録した人数（複数のボランティアに登録している場合も1人として計算）	例年160人程度を定員とし、募集を締め切っている。多様なボランティア活動の機会や場所を提供し、ボランティアの協力を得ることで図書館サービスの充実を目指す。	156人	151人	164人	178人	160人	111.3%	目標を達成した。令和7年度図書館ボランティアは、令和7年3月3日に募集を開始し、応募多数のため6月末日で募集を締め切った。引き続き、ボランティアの皆様と共に図書館サービスの充実を図っていく。
5-3	ボランティア活動者数	中央図書館の各ボランティア活動に参加した延人数	令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。多様なボランティア活動の機会や場所を提供し、ボランティアの協力を得ることで図書館サービスの充実を目指す。	1,906人	1,918人	2,116人	2,356人	2,000人	117.8%	昨年度と同様に多くのボランティアの方に活動いただいた。特に配架ボランティアにおける活動人数が増加している。（昨年度比247人増）
5-4	ボランティア等によるおはなし会等開催回数	図書館ボランティア・図書館職員等が実施したおはなし会・ブックトーク・パネルシアター等の開催回数（学校訪問ブックトーク事業については積算しない。）	おはなしボランティアによるおはなし会（月9回）、図書館職員によるおはなし会（月4回、8月なし）、地域文化ボランティアによるブックトーク等（月2回）、おはなしボランティアによる人形劇・パネルシアター（年2回）、その他様々な形式のおはなし会を随時開催し、読書推進を図る。	152回	192回	183回	144回	160回	90.0%	おはなしボランティアによるおはなし会において、ボランティアからの要望により、1日2回（各回15分間）から1日1回（30分間）に運用を変更した。このため、実施回数が大きく減少した。（ボランティア団体毎に変更時期は異なる。）令和7年度は、例年実施しているものの他、中央図書館職員による「なつのこわいおはなし会」、つくば市ジオパーク室職員によるおはなし会を実施した。

6 学校図書館等支援に関する指標（6項目）

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
6-1	団体貸出利用回数	団体貸出を利用した団体の延利用回数	令和5年度の目標を継続し、新型コロナウイルス感染症流行前の水準（令和元年度：約250回）に戻すことを目標とする。	126回	100回	107回	95回	200回	47.5%	令和4年度から毎年減少している。理由としては、PTA団体の利用が減っていることや、電子書籍が普及していることが考えられる。今後は、学校への情報発信を強化し、新規団体の増加に繋げていきたい。
6-2	団体貸出図書冊数	保育所・幼稚園・小学校・児童クラブ・福祉施設等の団体に対しての図書の貸出冊数（1回につき1団体300冊まで3か月間貸出可能）	新型コロナウイルス感染症流行前の水準（令和元年度：約10,000冊）に戻すことを目標とする。	8,187冊	8,703冊	8,376冊	7,587冊	10,000冊	75.9%	上記「団体貸出利用回数」と同様に、貸出冊数も減少した結果となった。積極的な情報発信を行うことで、利用冊数の増加を図っていく。
6-3	社会科学等 の図書館見学受入回数	保育所・幼稚園・小学校・義務教育学校・特別支援学校等による図書館見学の受入回数	読書活動の普及を図るため、受入体制の充実に努め、読書活動の推進を目指す。	6回	5回	6回	10回	10回	100.0%	令和7年度は依頼を多くいただき、目標を達成することができた。引き続き、積極的に受入れを行っていくことで図書館を身近に感じてもらい、幼児、児童の読書推進を図っていく。
6-4	職場体験学習 受入人数	8年生（中学2年生）を対象とした職場体験の場として、中央図書館で図書館業務の体験学習を受け入れた生徒の人数	読書活動の普及を図るため、受入体制の充実に努め、読書活動の推進を目指す。	16人	25人	37人	38人	40人	95.0%	令和3年度までは新型コロナウイルス感染症の流行により職場体験の受入れを中止していたが、令和4年度から実施を再開している。令和7年度も目標値の達成には至らなかったが、前年度より受入人数は大幅に増加した。今後も積極的に受け入れることで図書館を身近に感じてもらい、中学生の読書推進を図っていく。

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
6-5	ジュニア図書館員 受入人数	5年生から6年生を対象にした体験型事業「ジュニア図書館員」に参加した児童の人数	読書活動の普及を図るため、受入体制の充実に努め、読書活動の向上を目指す。	0人	56人	42人	24人	75人	32.0%	令和4年度まで新型コロナウイルス感染症の流行により実施を見送っていたが、令和5年度から内容を一新して再開し、2～3回程度のイベントとして実施している。参加人数を増加させるためには、定員及び回数を増加させる必要があるが、現状対応することは困難である。
6-6	学校司書等の 研修参加人数	学校司書等を対象に実施される研修の参加人数	学校図書館との連携を強化し、学校司書の研修等を支援することで、読書活動の推進を目指す。(令和6年度学校数:50校、学校司書人数:56人)	51人	51人	50人	51人	50人	102.0%	令和4年度から大きな増減はなく、継続して目標値を達成している。令和7年度は学校司書を対象に1回のみ実施しているが、今後は回数や対象の設定を拡大させることで、さらなる連携に努めたい。

7 市民満足度に関する指標（1項目）

No.	目 標 指 標	指標の説明	目標値の設定理由	参考実績値			実績値 令和7年度	目標値	達成度	評価
				令和4年度	令和5年度	令和6年度				
7-1	利用満足度調査の 満足度	図書館利用者に対して図書館サービスについての満足度調査を実施し、「満足」「やや満足」と回答した人の割合	図書館利用者の満足度を把握し、利用者の声をサービスに反映させることで図書館運営の向上を目指す。令和5年度までは中央図書館の利用者のみを調査対象としていたが、令和6年度以降、調査対象を広げて実施予定。	90%	83%	83%	89%	80%以上	111.3%	令和6年度より6ポイント上昇し、目標値を達成している。しかし、回答件数は478件(令和6年度)から186件(令和7年度)に減少しているため、割合から満足度について単純に比較を行うことは難しい。実施時期を例年の2月～3月から3月～4月に変更し、ホームページ及びつくすまによる広報を実施しなかったことが影響した可能性がある。